

研究主題
自ら学びを切り拓く児童の育成
 ～ アクティブに学び合う学習過程の工夫を通して ～

【 児童の実態 】

- 友達と教え合うのが好き
- まじめに学習に取り組む
- ▲受動的、やらされ感
- ▲発言、発表がやや少ない
- ▲自己肯定感がやや低い



【 目指す児童像 】

◎自ら学びを切り拓く姿

「何で?」「そのところがよーわからん」
 「どがんしたと?」「どがん考えたと?」
 「そこはもう一回言って」「詳しく説明して」
 「なるほど」「なーんだ」「そうか」「スッキリした」
 「わかったぞ!」「できたぞ!」「ありがとう」
 「教えてもらおう」「教えよう」「みんなで問題解決」
 「みんなでわかるように、できるようになるう」

※1つの授業内で、自分がわからないこと・できないことをそのままにしておかない、学習を大切にする主体的な姿を期待



【教師の意識】

- ・教科書ば進めんば!
- ・わからせんば!
- ・きちっとさせんば!
- ・時間内に進めんば!
- ・話し合わせんば!

【授業中の教師の姿】

- ▲教科書を教える
- ▲教師が全面に立ちすぎる
- ▲しゃべりすぎる・説明しすぎる
- ▲時間を十分与えず、せかす、待てない
- ▲目的なく話し合わせる

Change!

児童がもっと 「アクティブ」に学び合う授業 への転換

Challenge!

学習過程の工夫

教師の役割と出番を吟味し、児童の学びの自由度と時間と場を保障する

①ミッション ⇔ ②アタック ⇔ ③コンプリート



自立した学習者へ

そのための視点として (発達段階に応じて)

- ①ミッション(問題提示)・・・わくわくする・見通せる・見方、考え方の明確化・短時間で
- ②アタックタイム、コンプリータイムの検討(児童の行動変容と学習内容の定着、時間確保)
- ③児童の見取り、収束の検討(思考を整理し、学びを方向づける教師の役割、出番、関わり方等)



児童：自分で、自分達で何とかせんば!
 何とか解決しよう! 何とかできそう!
 (学習主体は児童である)

教師：正しく方向づけ、指導・支援する
 (軌道に乗れば、授業に余裕も生まれる)

